

「市民のスポーツに関する意識・活動状況調査」結果について

1 主な調査結果

(1) 市民の運動やスポーツの実施状況

①週1日以上運動やスポーツをする方の比率（国でいう「成人の運動・スポーツ実施率」）の高まり

週1日以上運動やスポーツを行っているとは回答された方は全体の48.4%でした。平成12年度の「市民のスポーツに関する意識・活動状況調査」では36.1%でした。10年間で12.3%増えました。

同種の調査と比較すると、国45.3%（平成21年内閣府「体力・スポーツに関する世論調査」に基づく文部科学省推計）、京都府40.0%（平成20年京都府教育委員会「京都府民のスポーツに関する調査」）を上回る結果となりました。

また、前回調査と比較して、「運動やスポーツはしていない」と回答された方の割合がほぼ半減し、（27.5%→14.3%）、「週3日以上」、「週に1～2日」運動やスポーツをしているとは回答された方の割合が増えています（「週3日以上」14.9%→22.8%、「週に1～2日」21.2%→25.6%）。

②多様な運動やスポーツの内容

この1年間に行っている運動やスポーツの内容で回答が多かったものは、「散歩やウオーキング」（66.6% 複数回答）、「体操（ラジオ体操、美容体操、エアロビクス、縄跳びを含む）」（32.6% 同）など身近なものでした。このような軽く身体を動かす運動やスポーツを中心に、球技や野外で行う運動やスポーツも含めて、多様な運動やスポーツが市民の間で行われています。

③まち全体が運動やスポーツの場に

運動やスポーツを行っている主な場所は、「近所の道路（散策路など）」（44.6% 複数回答）や「家（室内や庭）」（28.1% 同）及び「空き地、広場、河川敷、公園」（24.2% 同）といった身近な場所でした。「民間のスポーツ施設」（28.6% 同）、「公共のスポーツ施設」（21.9% 同）が利用されるだけでなく、まち全体の空間や施設を利用して行われています。

また、スポーツ施設では、10年前は「民間のスポーツ施設」（20.9% ただし単数回答）が「公共のスポーツ施設」（10.6% 同）のほぼ倍であったのに対し、「公共のスポーツ施設」の利用が進む傾向が見られます。

④運動やスポーツをする主な目的は健康・体力づくり

運動やスポーツを行う目的は、「健康・体力づくりのため」という回答が最も多く、69.4%（複数回答）でした。全体的に、運動やスポーツは、健康や体力づくりのために、身近な場所で色々な曜日や時間帯に「一人で」、「友人や知り合い」とあるいは「家族」と行われています。

(2) 市民の運動やスポーツを取り巻く環境

①運動やスポーツに関する情報源は行政情報が主

京都市のスポーツに関わる情報は主に行政の刊行物から入手されています（61.5% 複数回答）。また、回答された方の入手したい情報は、「室内でもできる手軽な運動」（36.1% 同）、「市内の身近なウオーキングコース」（34.3% 同）など身近な活動に関する情報が、「スポーツ施設に関わる情報」（30.0% 同）、「スポーツ教室」（19.7% 同）など施設や機会に関する情報を上回っていました。

②参加と協働

この1年間にスポーツ行事(大会等)に参加したことがあると回答された方は28.7%でした。そのうちの半数以上が「地域(体育振興会や町内会等)」(56.5% 複数回答)主催事業に参加し、形態としても、ほぼ半数が「選手として」(51.9% 同)、「応援者・見学者として」(48.8% 同)スポーツ行事に参加されています。また、こうした活動に運営ボランティアとして参加されている方は参加したことがあると回答された方の内の10.8%(同)ですが、今後ボランティアとして参加したい、あるいは参加してもよいと回答された方は全体の20.8%でした。

③見るスポーツ, 応援するスポーツ

この1年間にプロスポーツやトップスポーツを直接観戦した方は、全体の24.4%でした。その内容は野球, サッカー, マラソン・駅伝などです。一方で、こうしたプロ・トップスポーツと市民の関わり方は、観戦が主で、選手との交流, サポーター組織への加入といった多様な関わり方をしていない人が大半(77.2% 複数回答)でした。

(3) 市民の運動やスポーツへの取組をもっとさかんにしていくために

①様々な効果がある運動やスポーツへの取組

運動やスポーツへの取組は、「高齢者の生きがいがづくり」(41.5% 複数回答)、「余暇時間の有効な活用」(40.0% 同)、「地域コミュニティの形成・活性化」(38.0% 同)など、多様な効果が期待できるという回答がありました。

②求められるより一層の環境の整備

こうした効果のある運動やスポーツへの取組を今後活発なものにするためには、「スポーツ施設が整備されること」(47.2% 複数回答)、「地域でスポーツに親しむ機会が増えること」(37.3% 同)、「スポーツ施設の利用申込みが簡単になること」(35.5% 同)、「市民が参加できるようなスポーツ教室やスポーツ大会等の催しものがあること」(31.3% 同)など、ソフト・ハードの両面にわたる環境整備が必要だという回答が多くありました。

2 調査結果公表

別添報告書を10月4日(月)から、文化市民局市民スポーツ振興室ホームページにて公表します。

3 調査概要

- | | |
|-----------|---|
| (1) 調査方法 | アンケート調査(郵送法:調査票郵送, 郵送回答) |
| (2) 調査対象 | 20歳以上の市民3,000人
住民基本台帳及び外国人登録データから無作為抽出 |
| (3) 調査期間 | 平成22年8月4日(水)から平成22年8月18日(水)まで |
| (4) 有効回答数 | 907(回収率30.2%) |
| (5) 調査内容 | ・運動・スポーツの実施状況や今後の意向について
・スポーツ情報サービスについて
・プロスポーツやトップスポーツの観戦, スポーツ行事やスポーツクラブへの参加状況などについて
・属性 |

京都市民のスポーツに関する意識・活動状況調査報告書

概要版

1 実施概要

(1) 調査方法	・アンケート調査（郵送法：調査票郵送，郵送回答）
(2) 調査対象	・20歳以上の市民3,000人 ・住民基本台帳及び外国人登録データから無作為抽出
(3) 調査実施日	・平成22年8月4日（水）～平成22年8月18日（水）
(4) 有効回答	・907（回収率30.2%）

2 回答者属性

<区別内訳>

区	人数 (人)	百分比 (%)
北	70	7.7
上京	55	6.1
左京	111	12.2
中京	60	6.6
東山	26	2.9
山科	87	9.6
下京	42	4.6
南	62	6.8
右京	131	14.4
西京	91	10.0
伏見	165	18.2
無回答	7	0.8
計	907	100.0

<性別・年齢別内訳>

年代	男 (人)	女 (人)	無回答 (人)	計 (人)	百分比 (%)
20歳代	34	50	0	84	9.3
30歳代	46	96	0	142	15.7
40歳代	61	85	0	146	16.1
50歳代	65	87	0	152	16.8
60歳代	77	117	1	195	21.5
70歳以上	79	94	7	180	19.8
無回答	2	0	6	8	0.9
計	364	529	14	907	100.0
百分比 (%)	40.1	58.3	1.5	100.0	

<職業別内訳>

	自営業 自由業	会社員・公務員等, 給与所得者	主婦・ 主夫	学 生	無 職	その他	無回答	計
人数 (人)	118	328	219	22	154	55	11	907
百分比 (%)	13.0	36.2	24.1	2.4	17.0	6.1	1.2	100.0

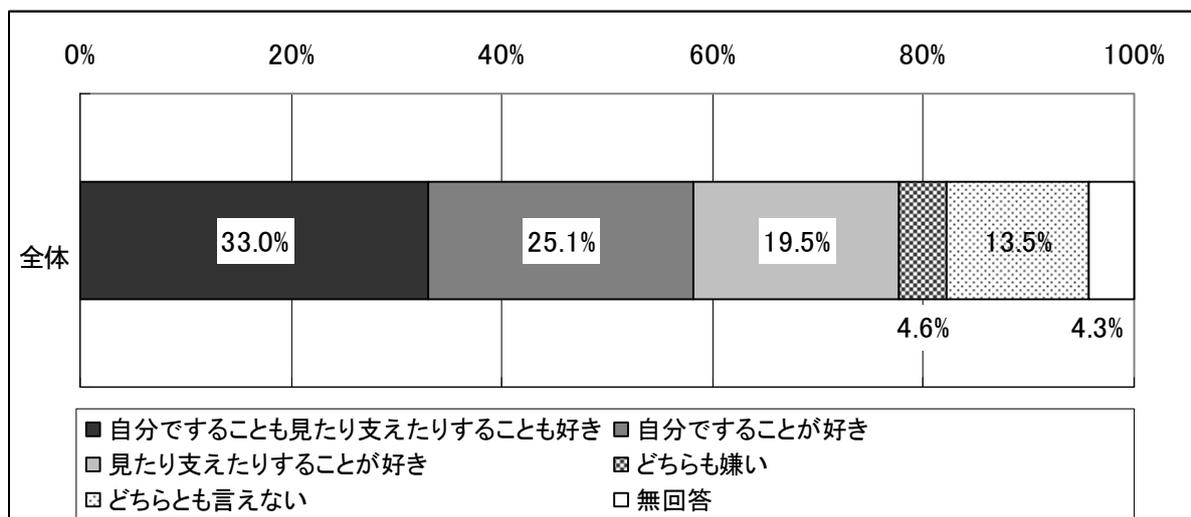
(注) ○ 百分比の合計は端数処理の関係で100%にならないものもあります。

○ 複数回答の百分比の合計は100%になりません。

3 集計結果

(1) 運動やスポーツは好きか

- ◎運動やスポーツが好きな市民は約8割。
- ◎運動やスポーツをするのが好きな市民は約6割。
- ◎運動やスポーツを見るのが好きな市民は約5割。



(2) この1年間に行った運動やスポーツの種目

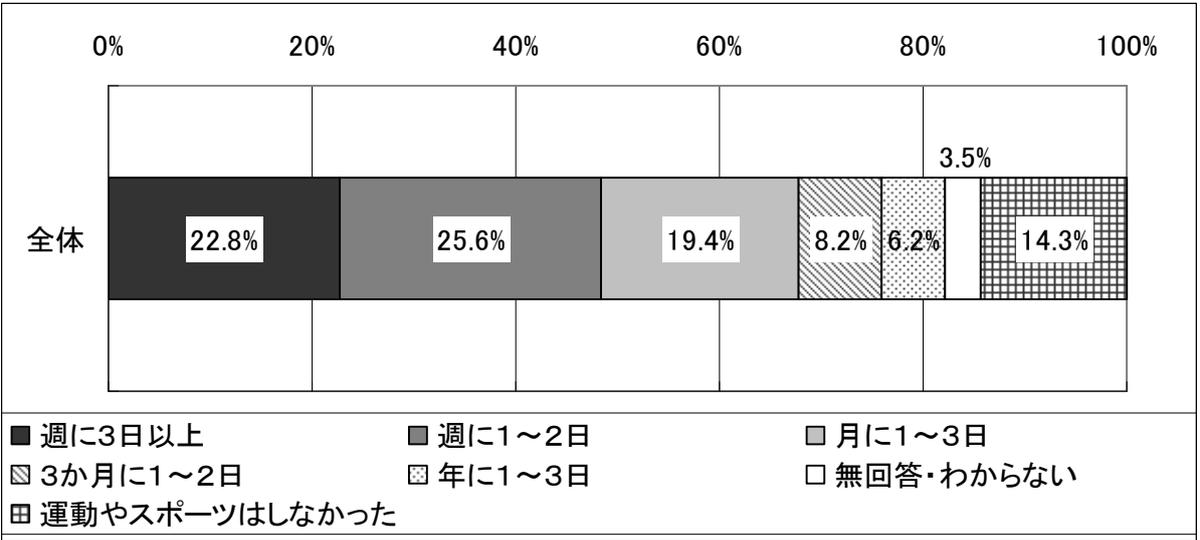
- ◎この1年間に行った運動やスポーツでは「散歩、ウォーキング」、「体操・室内運動」が上位。
- ◎約85%の人がなんらかの運動やスポーツをし、運動やスポーツをしなかった人は約14%。

順位	種目	実施率 (%)
1	散歩、ウォーキング	66.6%
2	体操 (ラジオ体操、美容体操、エアロビクス、縄跳びを含む)	32.6%
3	ボウリング	18.6%
4	水泳	17.1%
5	室内運動 (運動器具を使ってする運動)	16.9%
6	ハイキング、ワンダーフォーゲル、オリエンテーリング	14.9%
7	サイクリング、モーター(サイクル)スポーツ	14.1%
8	テニス、ソフトテニス、バドミントン、卓球	13.1%
9	ランニング (ジョギング)	11.8%
10	キャッチボール、ドッジボール	10.7%
11	釣り、フィッシング	8.8%
12	ゴルフ	8.0%
13	登山 (クライミングを含む)	7.7%
14	スキー、スノーボード	7.4%
15	ダンス (フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、民謡踊りを含む)	7.2%
16	野球、ソフトボール	5.8%
17	ゲートボール、グラウンド・ゴルフ、ベタンク	5.2%

順位	種目	実施率 (%)
18	バレーボール、ソフトバレーボール	4.4%
19	キャンプ、オートキャンプ	4.3%
20	サッカー、フットサル	3.7%
21	ボート、ヨット、ボードセーリング、スキューバダイビング、スクーバダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン	2.8%
21	柔道、剣道、空手、すもう、ボクシング、レスリング	2.8%
23	スケート	1.5%
23	陸上競技	1.5%
23	バスケットボール、ハンドボール	1.5%
26	乗馬	0.8%
27	弓道、アーチェリー	0.2%
27	ラグビー、アメリカンフットボール	0.2%
29	グライダー、ハンググライダー、スカイダイビング、パラグライダー	0.1%
30	その他	2.4%
31	わからない	0.3%
	無回答	0.7%
	運動やスポーツはしなかった	14.3%

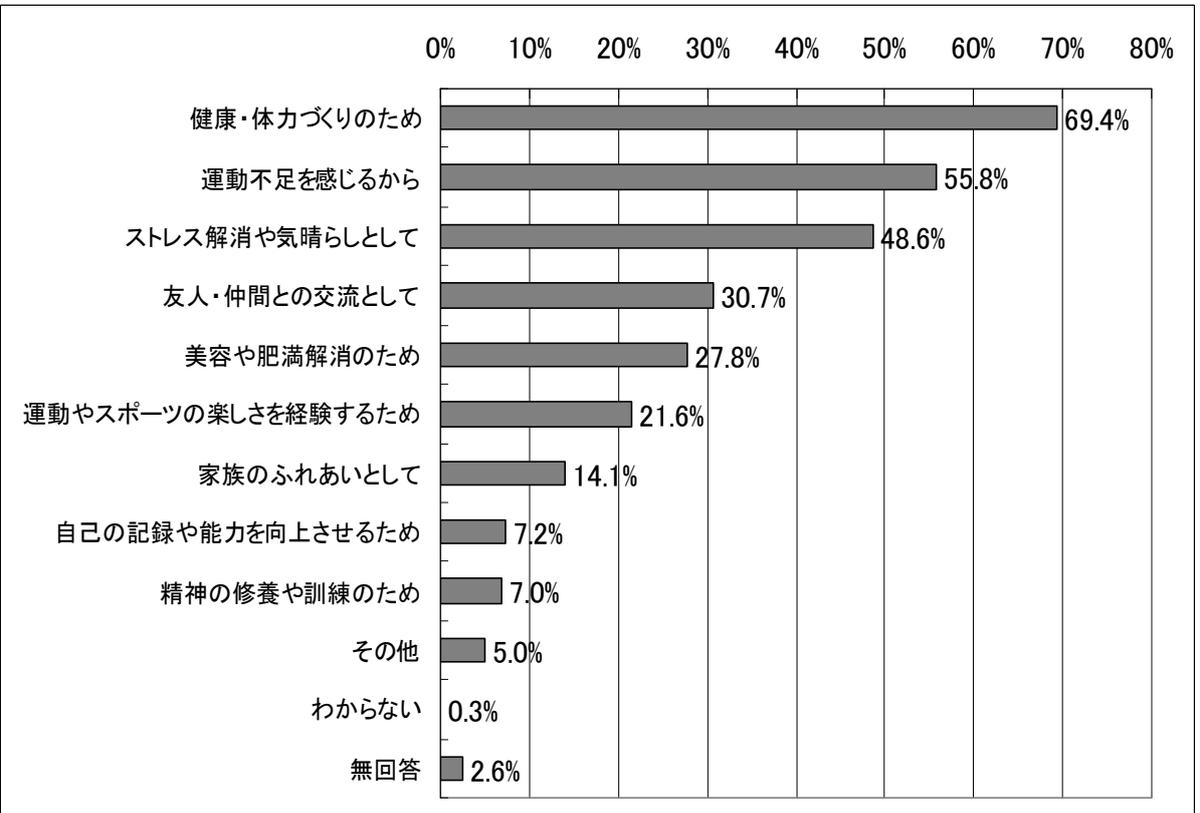
(3) この1年間に行った運動やスポーツの日数

◎週1日以上の運動・スポーツ実施率は48.4%。



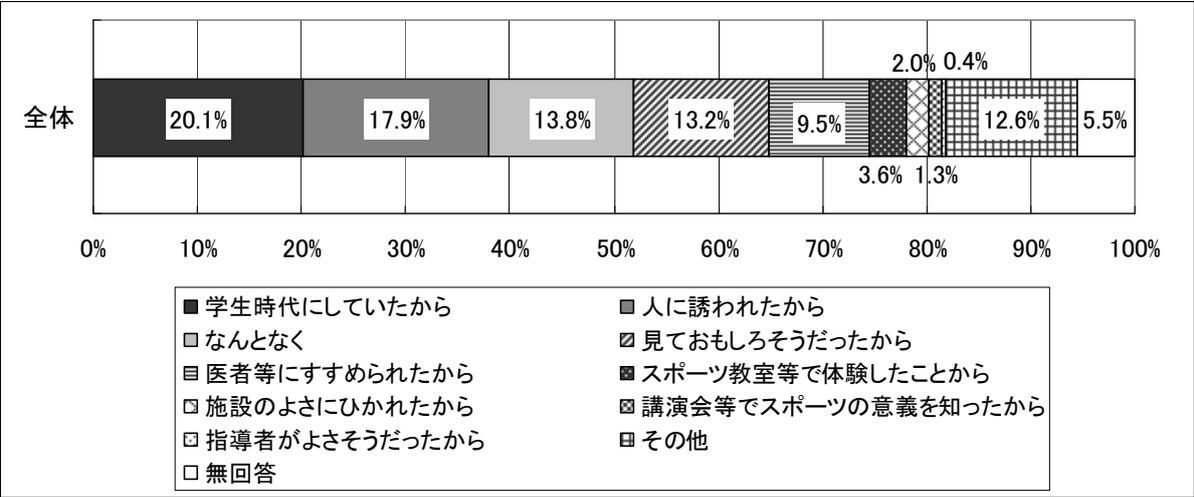
(4) 運動やスポーツをする理由

◎健康・体力づくりのために運動やスポーツをする人が多い。



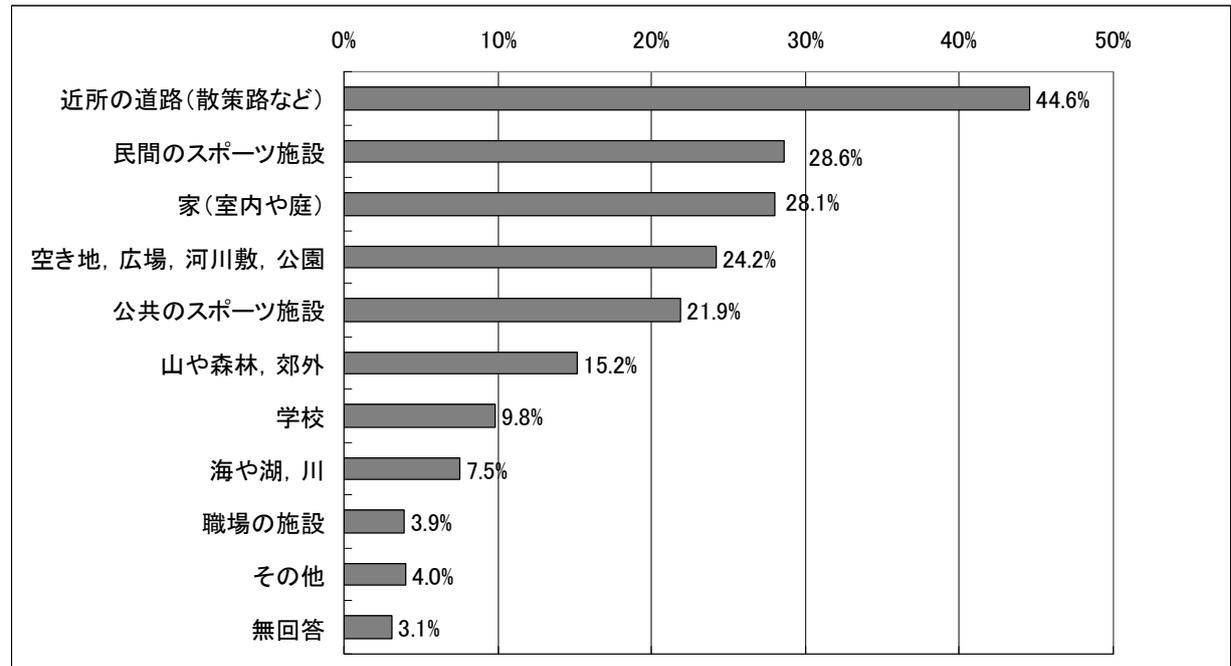
(5) 運動やスポーツを始めたきっかけ

◎運動やスポーツを始めたきっかけは「学生時代にしていた」、「人に誘われた」などが多い。



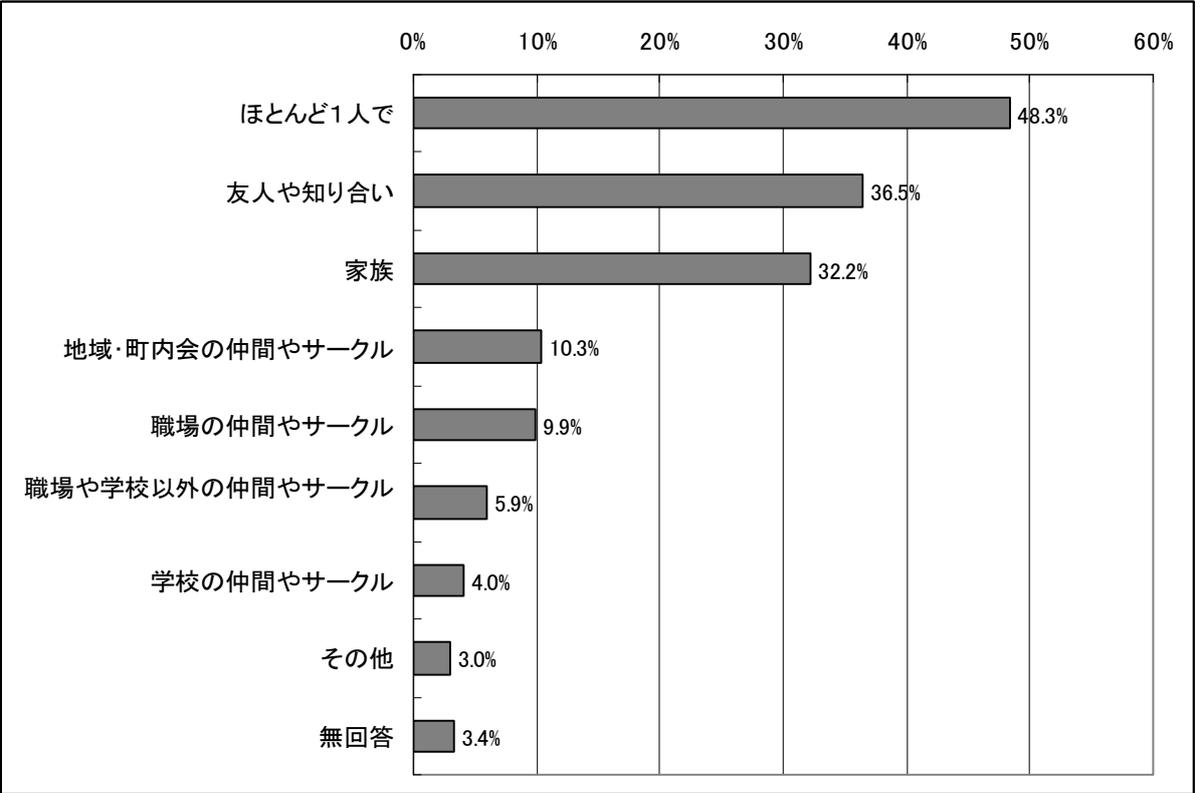
(6) 運動やスポーツをする場所

◎運動やスポーツをしている場所は、「近所の道路（散策路）」、「民間のスポーツ施設」、「家（室内や庭）」、「空き地、広場、河川敷、公園」、「公共のスポーツ施設」が上位。
◎色々な場所で運動やスポーツが行われている。



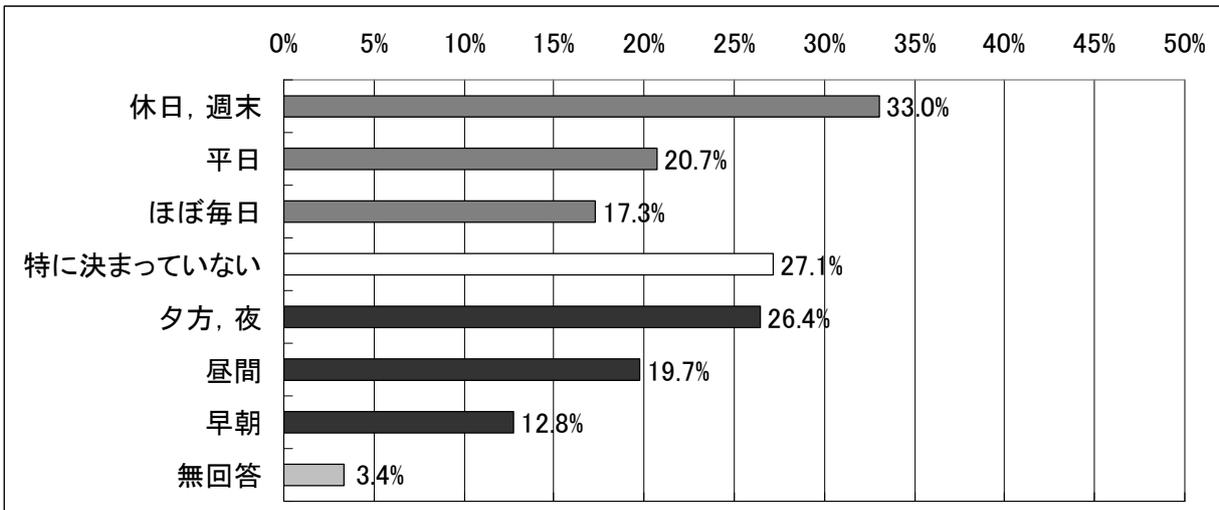
(7) だれといっしょに運動やスポーツをしているか

◎運動やスポーツをするのは、「ほとんど1人で」が最も多いが、「友人や知り合い」及び「家族」といっしょにしている人も多い。



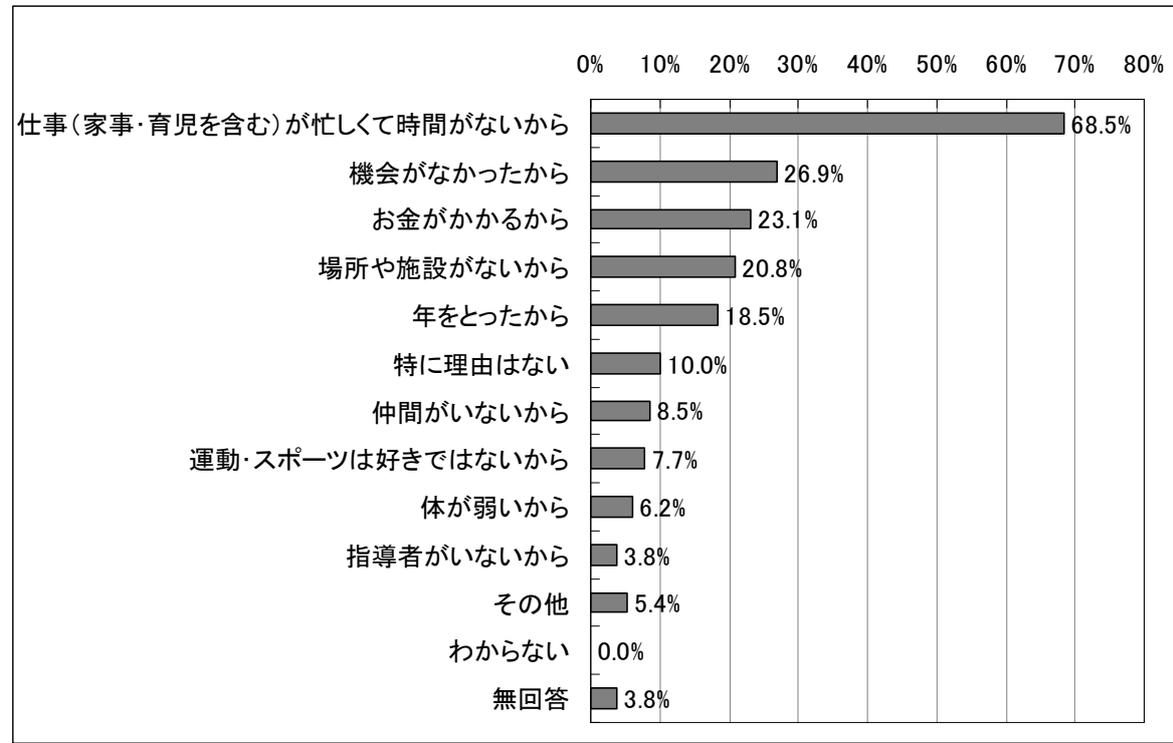
(8) 運動やスポーツをする曜日・時間帯

◎曜日等は「休日、週末」が多く、時間帯は「夕方・夜」が多い。
◎特に決まっていない人も多く、色々な曜日や時間帯に運動やスポーツが行われている。



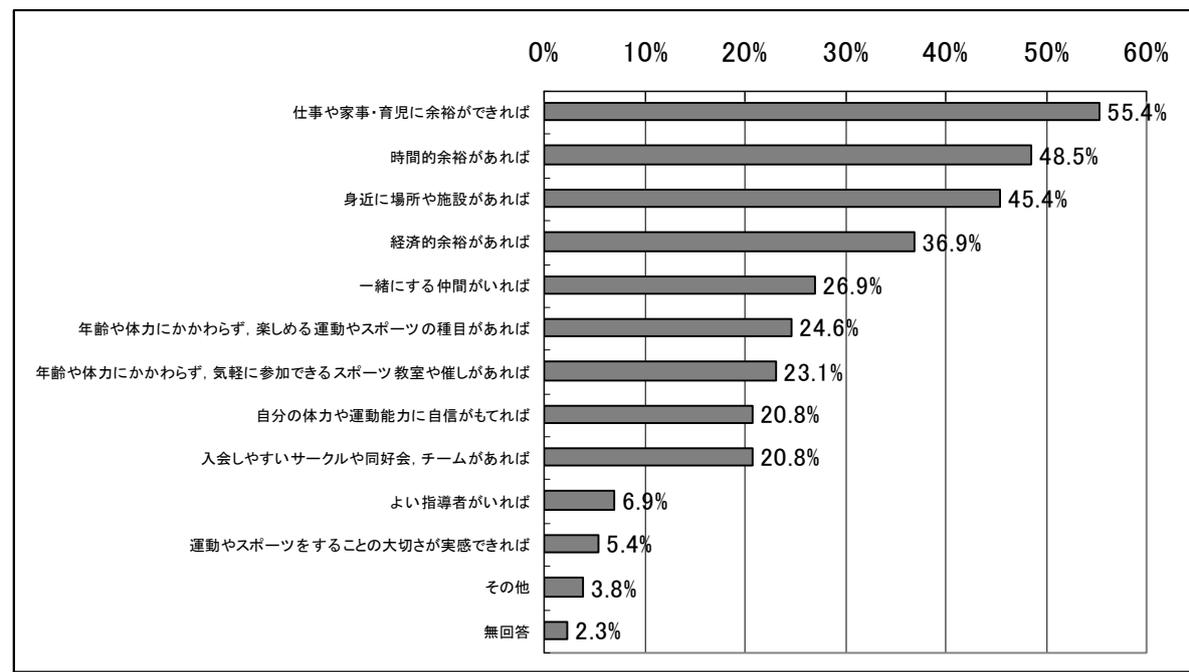
(9) 月に1日以上運動やスポーツをしていない、あるいはできない理由

◎月に1日（年に12日）以上運動やスポーツをしていない、あるいはできない理由は、「仕事（家事・育児を含む）が忙しくて時間がないから」が最も多い。



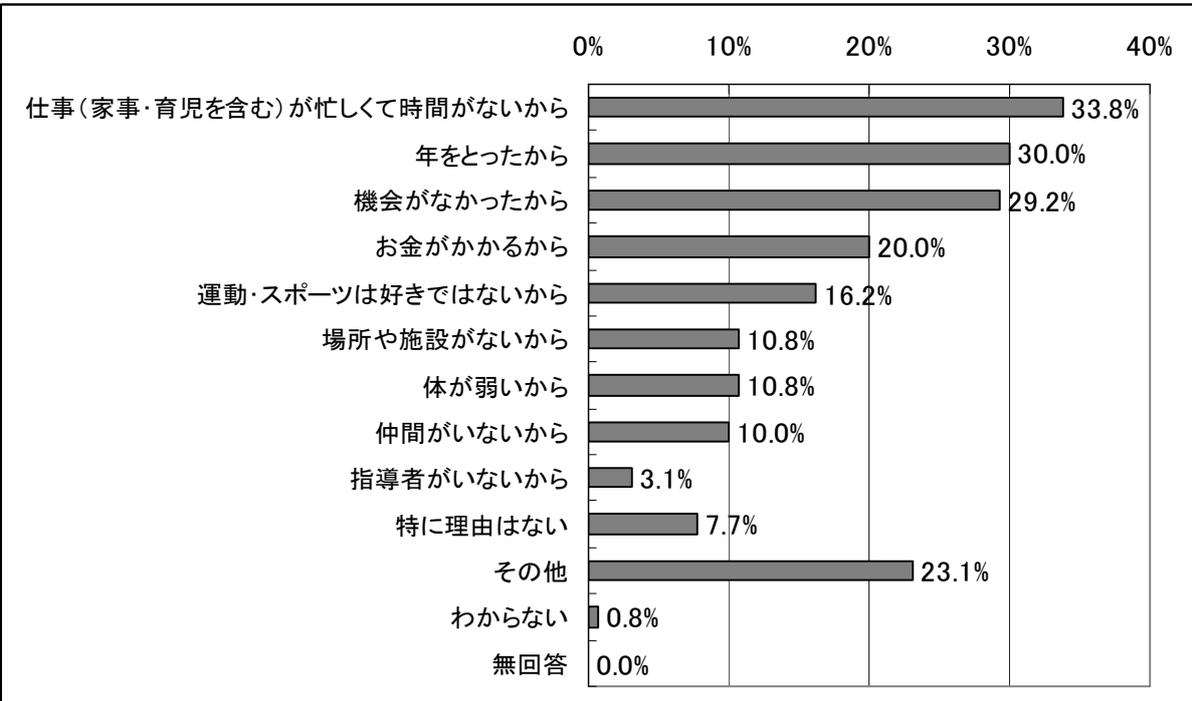
(10) もっと運動やスポーツをするようになる、してみたいと思うようになる条件

◎「仕事や家事・育児に余裕ができれば」、「時間的余裕があれば」、「身近に場所や施設があれば」、「経済的余裕があれば」という条件が整えば、もっと運動やスポーツをするようになる、また、してみたいと思うようになる。



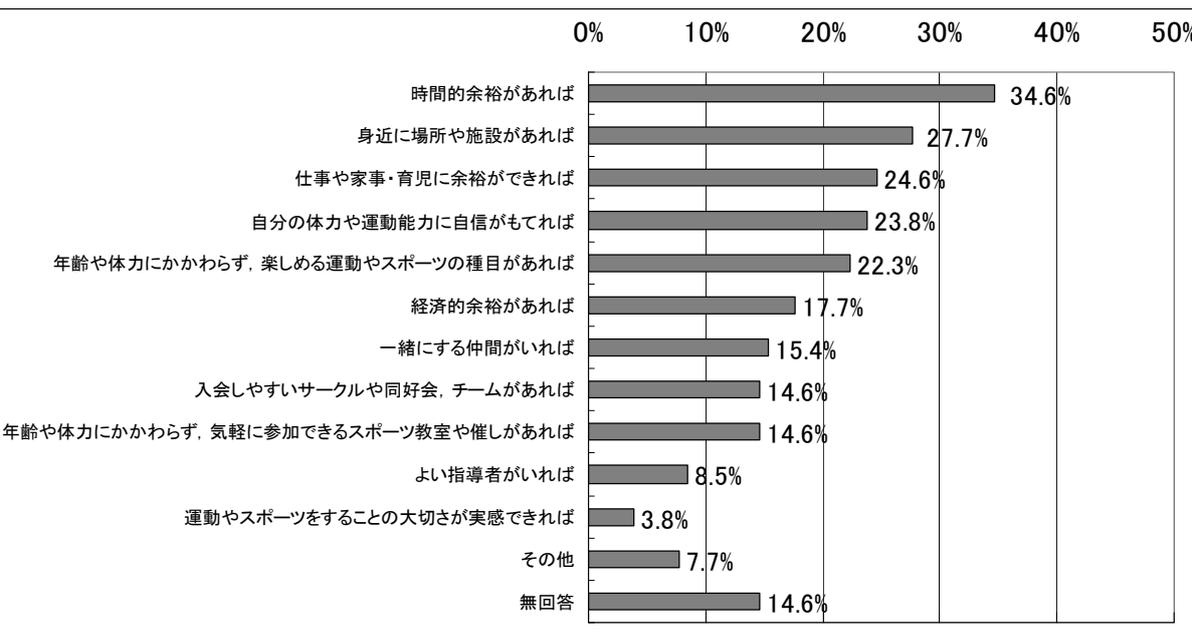
(11) この1年間、運動やスポーツをしなかった理由

◎運動やスポーツをしなかった理由は、「仕事（家事・育児を含む）が忙しくて時間がないから」、「年をとったから」、「機会がなかったから」が多い。

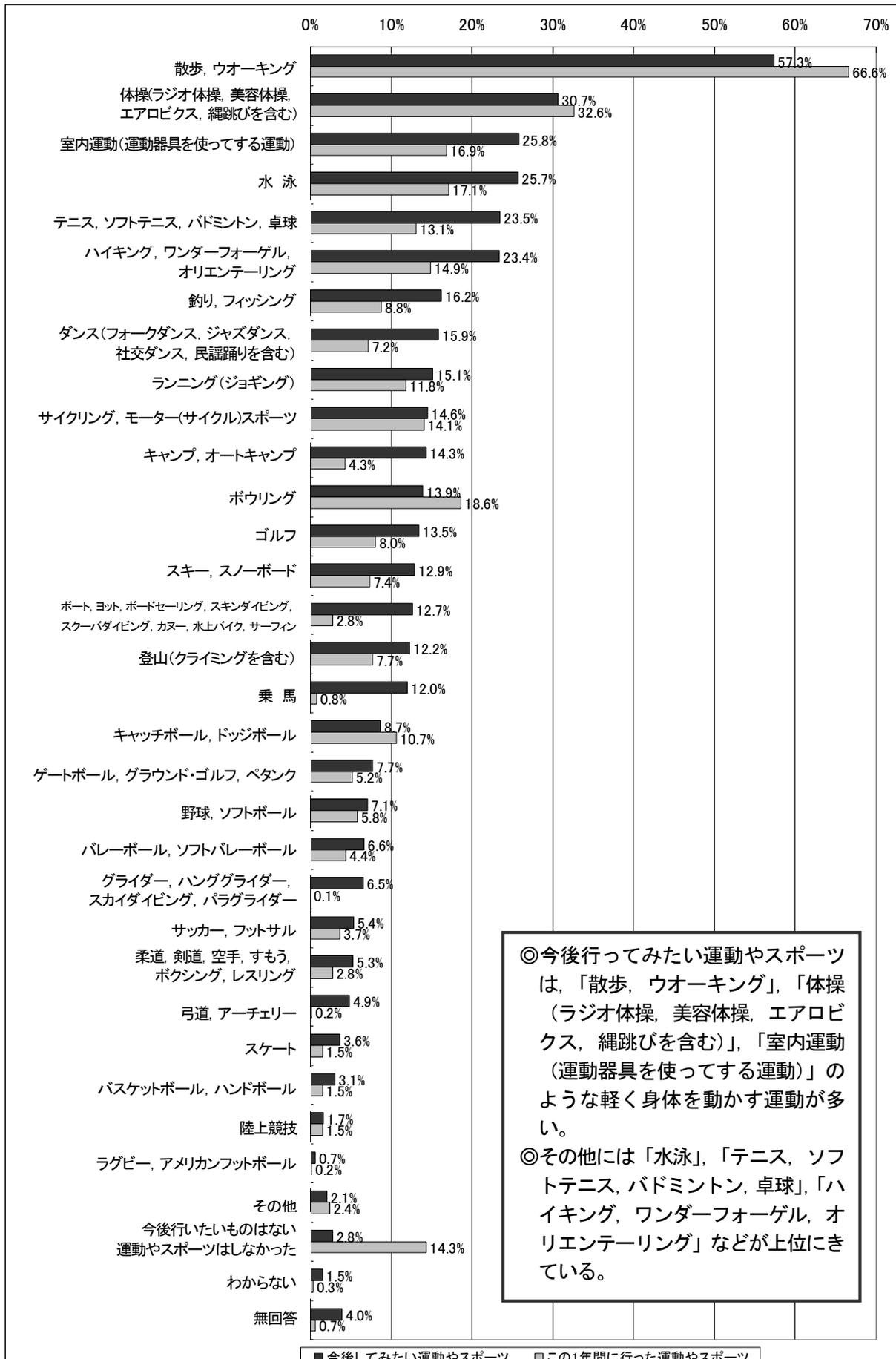


(12) 運動やスポーツをしなかった人が、するようになる、してみたいと思うようになるための条件

◎運動やスポーツをしなかった人がするようになる、してみたいと思うようになるためには、時間的余裕、身近に場所や施設、仕事や家事・育児に余裕、体力、楽しめる種目など、多様な条件が人それぞれの状況に応じて求められている。



(13) 今後行ってみたい運動やスポーツ

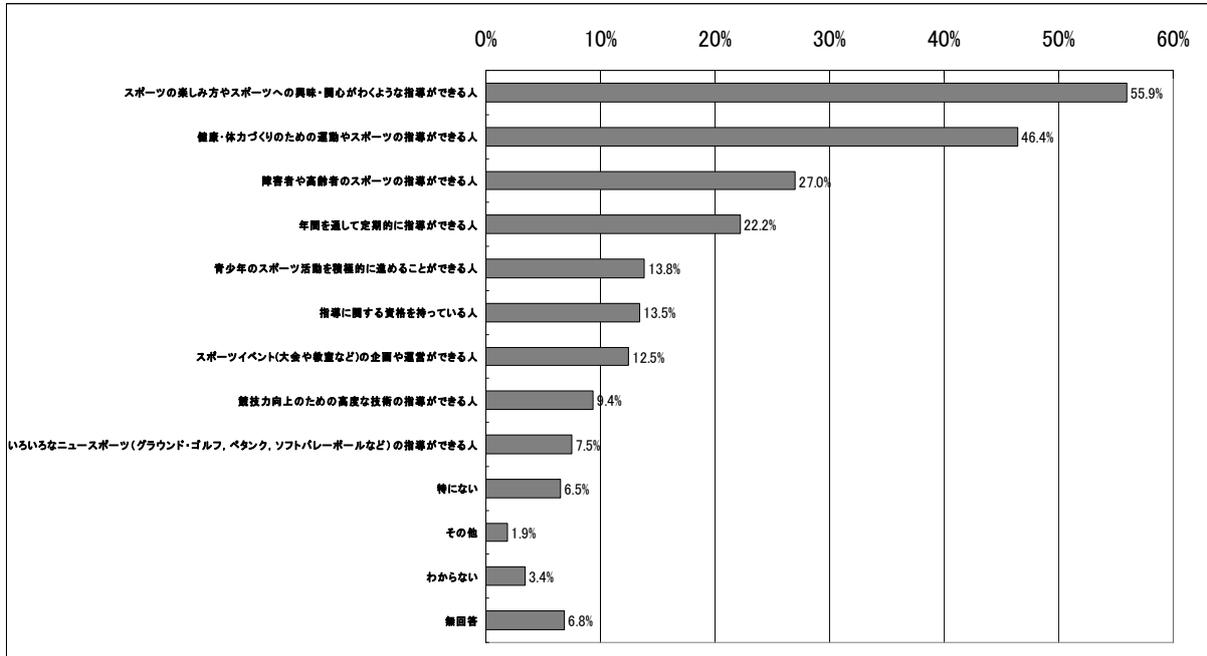


◎今後行ってみたい運動やスポーツは、「散歩, ウォーキング」, 「体操(ラジオ体操, 美容体操, エアロビクス, 縄跳びを含む)」, 「室内運動(運動器具を使ってする運動)」のような軽く身体を動かす運動が多い。

◎その他には「水泳」, 「テニス, ソフトテニス, バドミントン, 卓球」, 「ハイキング, ワンダーフォーゲル, オリエンテーリング」などが上位にきている。

(14) どのような指導者が必要か

◎運動やスポーツの指導者は、特に、「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」、「健康・体力づくりのための運動やスポーツの指導ができる人」が求められている。

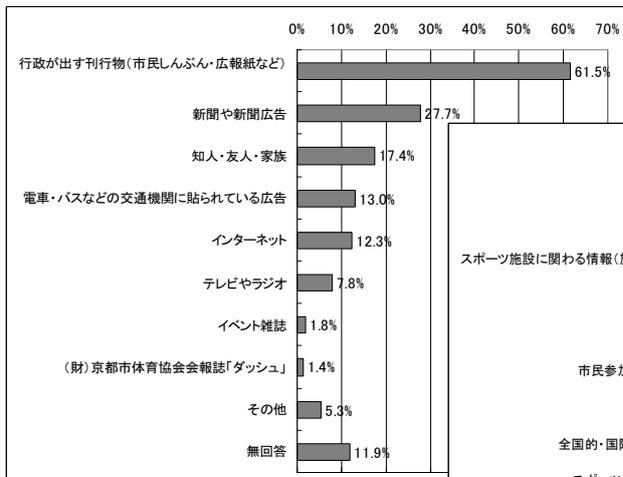


(15) スポーツ情報の入手

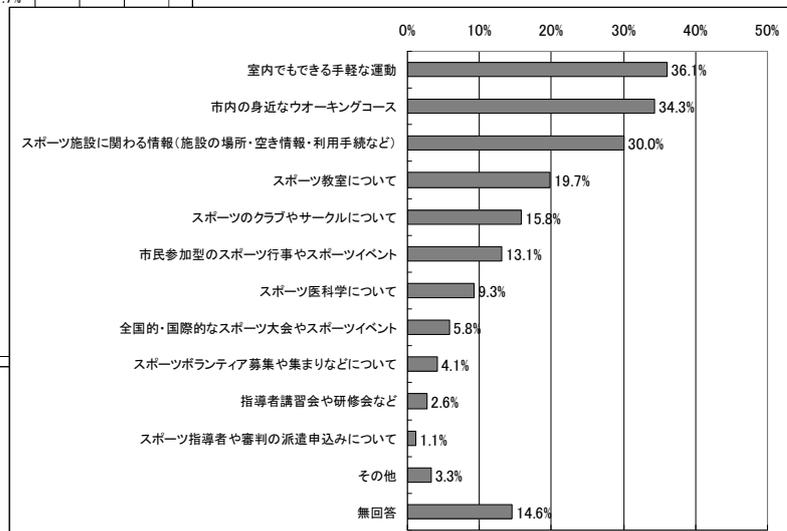
◎京都市のスポーツに関わる情報は、主に「市民しんぶん」や広報紙など行政発行物から入手されている。

◎京都市のスポーツに関わる情報では、特に、「室内でもできる手軽な運動」、「市内の身近なウォーキングコース」、「スポーツ施設に関わる情報」が求められている。

<スポーツ情報の入手媒体>



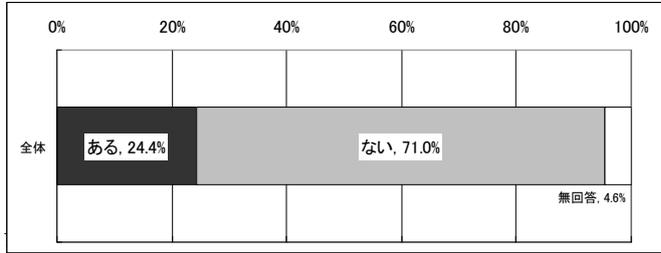
<今後入手したいスポーツ情報>



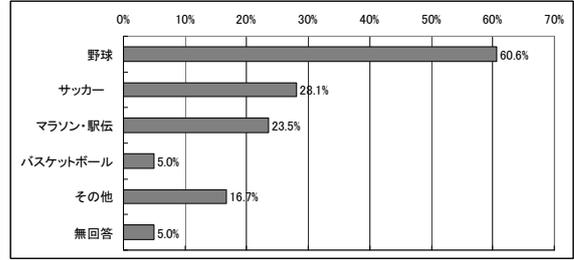
(16) プロスポーツ等観戦

◎この1年間にプロスポーツやトップスポーツを直接観戦した人は4人に1人。
 ◎プロスポーツやトップスポーツの直接観戦は、野球がトップで観戦した人のうちの約6割。
 ◎観戦以外のプロスポーツやトップスポーツとの関わりはあまりない。

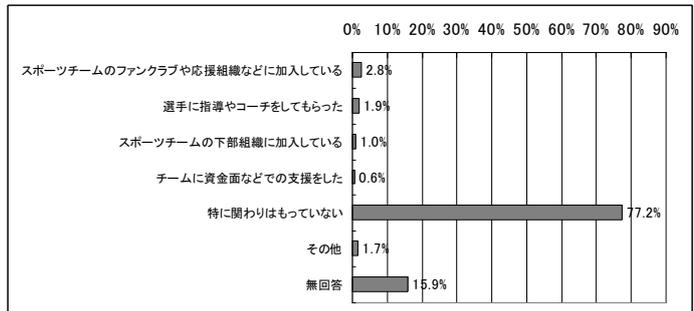
<観戦の有無>



<観戦したプロスポーツやトップスポーツ>



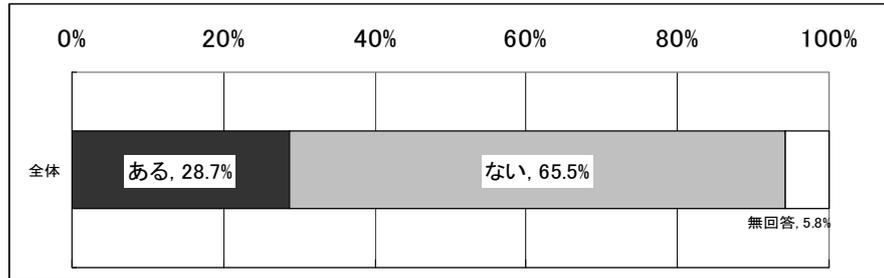
<観戦以外の関わり>



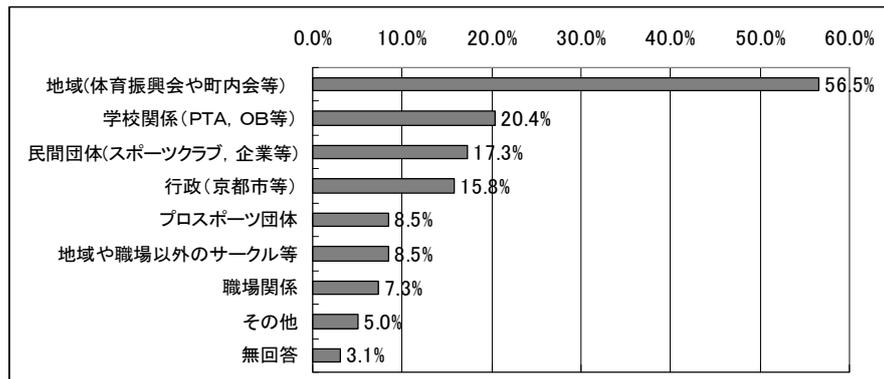
(17) スポーツ行事への参加

◎スポーツ行事（大会等）に参加した人は約3割。
 ◎参加したスポーツ行事（大会等）の主催者は地域（体育振興会や町内会等）が半数以上。
 ◎スポーツ行事（大会等）への参加形態は、「選手として」、「応援者・見学者として」の参加が約半数。
 ◎スポーツ活動にボランティア等で参加してもいいと回答した人は約2割。

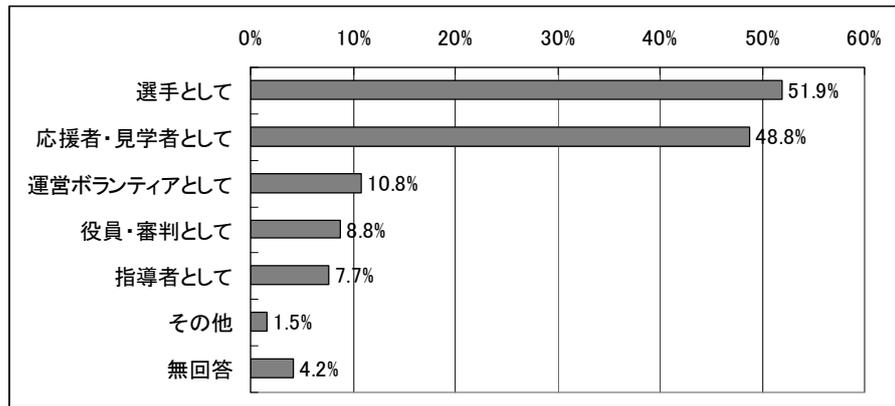
<参加の有無>



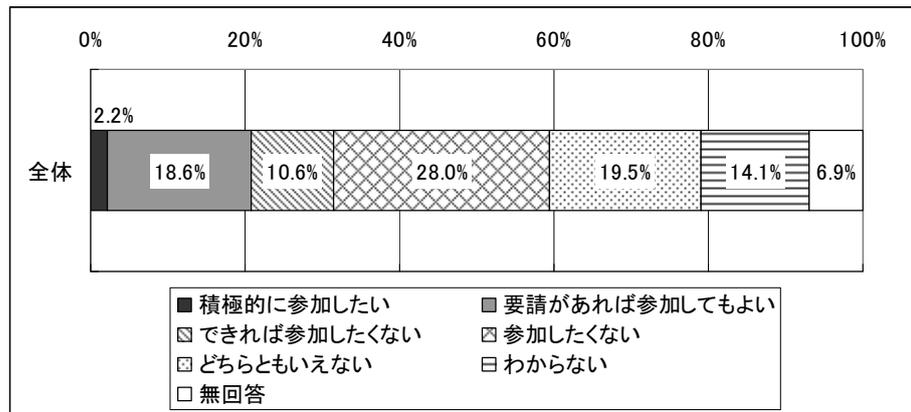
<参加した行事の主催者>



<参加形態>



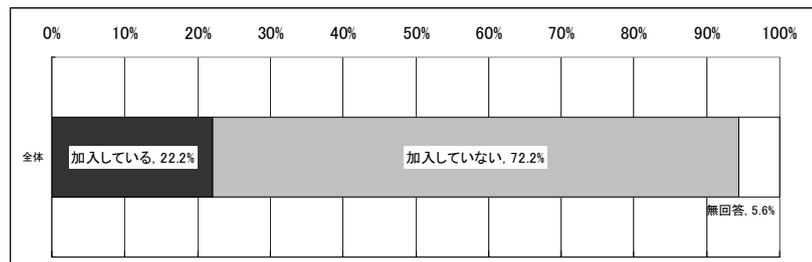
<ボランティアとしての参加意欲>



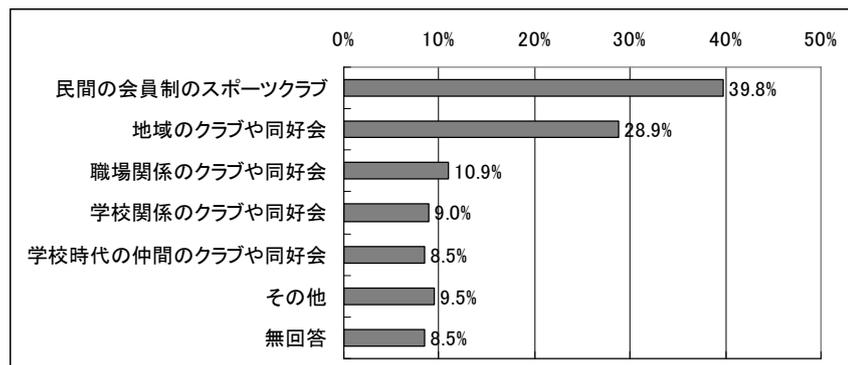
(18) スポーツクラブ、サークル等への加入

◎約2割の人がスポーツクラブやサークル、同好会に加入している。
◎加入しているスポーツクラブやサークル、同好会は民間の会員制スポーツクラブと地域のクラブや同好会が多い。

<スポーツクラブ・サークル等への加入状況>



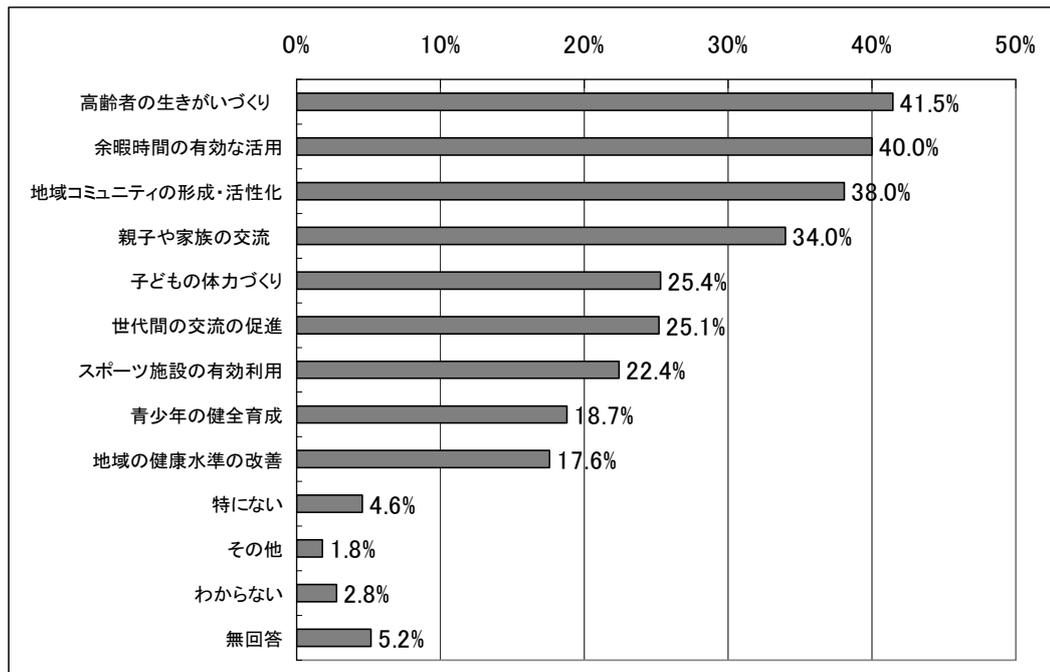
<加入しているスポーツクラブ・サークル等の種類>



(19) スポーツ振興に期待される効果とスポーツ振興で大切なこと

- ◎運動やスポーツへの取組をさかんにするには、「高齢者の生きがいづくり」、「余暇時間の有効な活用」、「地域コミュニティの形成・活性化」などに効果があるという回答が多い。
- ◎今後ますます運動やスポーツへの取組を活発なものにするためには、「スポーツ施設が整備されること」、「地域でスポーツに親しむ機会が増えること」、「スポーツ施設の利用申込みが簡単になること」が大切だという回答が多い。

<スポーツ振興の効果>



<スポーツ振興で大切なこと>

